

「雪 虫」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

毎年 11 月中旬から下旬にかけて、北軽井沢では不思議な現象が見られる。空は晴れているのに、ふわふわと白い雪のようなものが舞ってくるのだ。これは雪でもあられでもなく、「雪虫」と呼ばれる昆虫である。



「雪虫」冬枯れの景色の中に舞っている。(北軽井沢)

風のない日にふわふわと舞っているが、人の動きが起こす程度の風で、簡単に飛ばされてしまう。なかなか捕まえることができないので、地元の人でも、ほとんど正体を知っている人がいない。



私は苦勞して、やっと 1 匹つかまえた。飛ぶ能力も歩く能力も非常に低く、捕まえて机の上に置くと、もう

死んだように動かなくなってしまった。一体コイツは何者だろうか？一見、蚊の一種にも見えるが、実はアブラムシの仲間の昆虫である。



トドノネオオワタムシ *Prociphilus oriens*

私が捕まえた雪虫は、どうやら「トドノネオオワタムシ」(椴根大綿虫)というらしい。アブラムシ科の昆虫は、通常翅を持たないが、生殖飛行など特別な時期には、翅を持つ種類がある。トドノネオオワタムシにも翅を持つ個体が見られる。しかし、飛ぶ能力が非常に低いので、補助的に綿のようなものを身にまわって、揚力をアップさせているらしい。この綿のようなものは、虫自身から分泌された蠟のような物質である。生息にはトドマツ(椴松)の根が必要だが、このあたりにはトドマツは見られない。トドマツとごく近縁の、シラビソの根に生息していると思われる。

「雪虫」の名の由来を、北軽井沢の地元で聞くと、「小雪が舞っているように見えるから。」とか「雪虫が舞うと、初雪が近いから。」といった答えだった。実際に、雪虫が舞うと、数日後に初雪が舞うことが多い。初雪の前に、シラビソの根から、別の植物の幹に移動するのだろう。エゾハルゼミ、ミヤマクロガタ、ミヤマカラスアゲハなどと並んで、高原に季節を運んでくる昆虫である。